

## まえがき

本学は平成十六年四月一日付けで、大学基準協会から同協会の正式会員として認められ、同時にその認定証を獲得した。これは本学が高等教育機関として公的な社会的評価を勝ち得たことを意味するが、よく考えてみると、本学の常日頃の地道な教育実践に目をやるならば、今回、本学が教育研究面で社会的認知を得たことは至極当然な結果であって、むしろ遅きに失したといっても過言ではなからう。

ここで本学の存立基盤となっている建学の精神に、改めて注目すると、次のとおりである。すなわち、本学の建学の精神は校訓「真実心」に集約されるといえるが、本学はこの建学の精神を具現化するために、（１）仏教精神に基づく教育と（２）女性を大切にせる教育を二本柱にして、①明朗・快活な心を育む、②あたたかな思いやりと奉仕の心を育む、③真理探究と誠の心を育む、④平和と平等の心を育む、⑤品性と知性の輝く、自立した女性を育む、の五つの教育目標を掲げて教育実践に励んでいる。

るわけだ。

ちなみに、「眞実心」の定義については、『眞実心』二十五集（平成一六・三発行）に言及しているので、ここでは省略に従うほかないが、要するに、本学は校訓「眞実心」の具現化のための主要な行事として、年五回「宗教講座」を全学生を対象にして実施しているわけだ。このうち、初回は「学長講話」なるものだが、総じて上記のような趣旨で行われるこの「宗教講座」なる催しは、全学生が慈悲の心を持って他者に対して行動できる精神を養成するとともに、自己に対しては厳しい態度で律する精神が醸成するような、言わば宗教的精神に立脚して自立した行動ができる、近代的女性としての精神の涵養を目的としてなされるものである。

本年度も、以上のような目的で催された「宗教講座」が成功裡のうちに、無事終了し、ここに『眞実心』第二十六集を上梓する運びとなった。収録数は五編。わたしの「学長講話」を除く四編は、いずれも宗教学に裏打ちされて諸種の分野で活躍されている第一線の先生がたの講話で、まさに『眞実心』に収載するのにふさわしい好論のオン・パレードといえる内容である。各講師の先生が独自に歩を印してこられたご自

身の人生と、それに深く裏打ちされた専門分野に焦点をしぼっての各論には、われわれが経験することのできなかった、言わば未知の知的好奇心を刺激する宗教的世界があますところなく展開されている。

どうかみなさん、この『真実心』に収められた諸講話に、今度は読者としてかわり、各講師の語られた宗教講話から、みなさんがこれから歩む人生に必要な手がかりを貪欲に吸収して、みなさん各自の人生がより豊かになるように、わたしは衷心より願っている。

京都光華女子大学・  
同短期大学部

学長 三村晃功